

### 第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

◇日 時 2023年10月28日(土) 10:00~12:00

◇場 所 県立万葉文化館

◇参加者 【学生】東、井上

【万葉文化館】井上、竹内

【大学教員】加藤、米田、大西 計7名

◇内 容 授業構想の検討

#### 1. 東晃太郎さん(社会科教育専修3年生)

飛鳥時代・万葉集を地理学の視点から考える授業を展開したい  
全国の地を表す言葉が含まれる万葉集を知るには、万葉歌碑が有効である

ただし、すべてが必ずしも万葉歌が詠まれた場所に建てられているとは限らない

万葉文化館の「万葉百科」、奈良女子大学の「万葉歌碑データベース」をもとに調べさせる

関心をもった万葉歌碑に刻まれている万葉集を取り上げ、全国地図に点で表していく

→ 万葉集は日本の至る所で詠まれていたことに気づく

→ 伝える活動

#### 【意見交流から】

- ・地形は当時と大きく変わっている。それが分かれば面白い。  
分かりやすいのは川筋や海岸線。  
万葉集に詠まれた地形と今との違いに気づけば、地理との関連が見えてくる。  
香具山も、もとは山容が違ったという説がある。
- ・万葉集は、そのあとの時代の歌に比べて、その場で詠まれたものが多い。  
特定のポイントを決めて、どこで詠まれたのかを考えるといいかも。  
実はその場所に行っていないということも分かるかも。
- ・全国地図に表すのはデジタル? シールで?  
緯度・経度まで分かればかなり正確になる。今はそこまでの資料はない。
- ・地名の由来を調べれば面白いと思う。  
「なぜ、そんな名前なんだろう?」というところはたくさんある。
- ・まずは、対象の学年や教科などを絞れば、もっと具体的に授業の流れが見えてくる。  
一から万葉集について知って考えるのは難しいから、中学生の国語? 社会? 総合?
- ・全国地図に表して、そこから考える展開が必要ではないか。  
単に、「全国各地で詠われている」だけでは浅いと思う。  
「なぜ、そんなに全国各地で詠われているのだろうか?」を考えることで、万葉集の価値が見える。  
そこから何を考えさせたいのかを明確にする必要があると思う。



## 2. 井上寿美さん（大学院教育学研究科 伝統文化教育・国際理解教育専攻）

漢詩や万葉に出会うきっかけづくりを、詩吟や和歌の表現を通じて子どもたちに伝えたい  
私には、受け継がれて来た漢詩が心の支えや栄養となっている



### 山上憶良

瓜食めば子ども思ほゆ栗食めばまして偲はゆいづくより来りしものそ  
まなかひにもとなかりて

安眠しなさぬ → 憶良の思いを想像しながら歌ってみよう

「なぜ山上憶良は子どもや生活の様子を歌にしたのだろう？」

子どものことが何よりも大切 離れていると寂しい

### 頼山陽が母への思いを読んだ詩を詩吟で吟ずる

→ 自分は家族に支えられている、大切に思われていることへの気づき  
和歌や漢詩を、書道や絵などに表現 発表会

### 【意見交流から】

- ・ 詩吟は江戸時代に国学研究が盛んになって、漢詩に節をつけていったことから始まった。  
流派によって吟じ方に違いがあり、120以上の流派がある。  
いわゆる、何百年前につくられた漢詩に、後の時代の人々が節をつけたもの。  
そういった詩吟が生まれてきた背景は学ぶ必要があるのではないか。
- ・ 「犬養節」で有名な犬養孝さんの節も、彼が勝手につけたもの。  
万葉集の歌が作られたころはどのように歌われていたかは分からない。  
しかし、歌であって歌われていたはず。
- ・ 取り上げる山上憶良の歌は、彼が70歳ごろの歌であって自分の子どものことを歌ったものかは分からない。
- ・ 導入は詩吟でいいのでは。声に出して表現するというところこそが大事であるというゴールでも。  
声に出す → 歌に込められた思いをどう歌うかを子ども自身が考え工夫することが大事。
- ・ 発表会も、表現の仕方は子どもに選択させた方がいいのでは。
- ・ 万葉集も歌われていたことを知る調べ学習のために万葉文化館を訪れる。

